

岡部長景巢鴨日記

編集
 尚友倶楽部
 奈良岡聡智 (京都大学法学部教授) 【尚友ブックレット30】
 小川原正道 (慶應義塾大学法学部教授)
 柏原宏紀 (関西大学経済学部准教授)



おかべなががみず
 岡部長景
 (1884-1970)

外交官・政治家。東京帝大卒。外務省文化事業部長、内大臣秘書官長を経て東条内閣の文部大臣に。戦後GHQに戦犯容疑で逮捕され巢鴨拘置所に22か月間収監される。釈放後は文化活動に復帰、東京国立近代美術館館長、国際文化振興会理事長などを歴任。

戦前、外務省、宮中、貴族院で活躍し、東条内閣の文部大臣を務め、戦後GHQにA級戦犯容疑で逮捕された岡部長景が2年近く収監された巢鴨拘置所で書き遺した日記が発見された！
 「敗戦」「占領」を華族政治家がどう受け止めたのか？
 巢鴨に収容された戦犯容疑者たちの生活ぶりとは？

疎開先の伊豆から帰京し、自身の戦犯指定を知った昭和20年12月3日から、釈放された21年8月31日までの22か月間の克明な記録。拘置所内の日常生活の様子や、他の戦犯容疑者との交流がリアルに描かれている。

- ▼皇居遙拝、君が代合唱にも占領軍は寛容だった
- ▼食べきれないほどの分量の充実した食事
- ▼皇族唯一のA級戦犯容疑者梨本宮守正王も特別扱いを受けていない
- ▼燃料不足にも拘わらず入浴の機会が十分あった

◎木戸幸一（内大臣）、東条英機（首相）、嶋田繁太郎（海相）、鈴木貞一（企画院総裁）、真崎甚三郎（陸軍大将）、賀屋興宣（蔵相）、大島浩（駐独大使）、鮎川義介（満業総裁）など、巢鴨に収容された戦犯容疑者たちのもう一つの姿が伝わってくる

★「巢鴨日記」全文のほか、岡部が巢鴨に入っている間に死去した妻悦子の日記と、昭和29年に岡部がまとめた回顧録全文も収録



「文藝春秋」9月号（芥川賞受賞作「火花」掲載号）にこの岡部長景巢鴨日記のほんの一部が紹介されています

- 岡部長景日記
昭和20年12月3日～21年8月31日
- 岡部悦子日記
昭和20年12月1日～20年12月29日
- 観堂随話
岡部の回顧録（俳誌『雪解』に連載）
【解説】岡部長景巢鴨日記（奈良岡聡智）
【解説】観堂随話——岡部長景回顧録——（小川原正道）

12月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 11月30日（月） です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版
 〒113-0033
 東京都文京区本郷3-3-13
 http://www.fuyoshobo.co.jp
 TEL. 03-3813-4466
 FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
岡部長景巢鴨日記		
12月新刊 本体 2,700円	部	